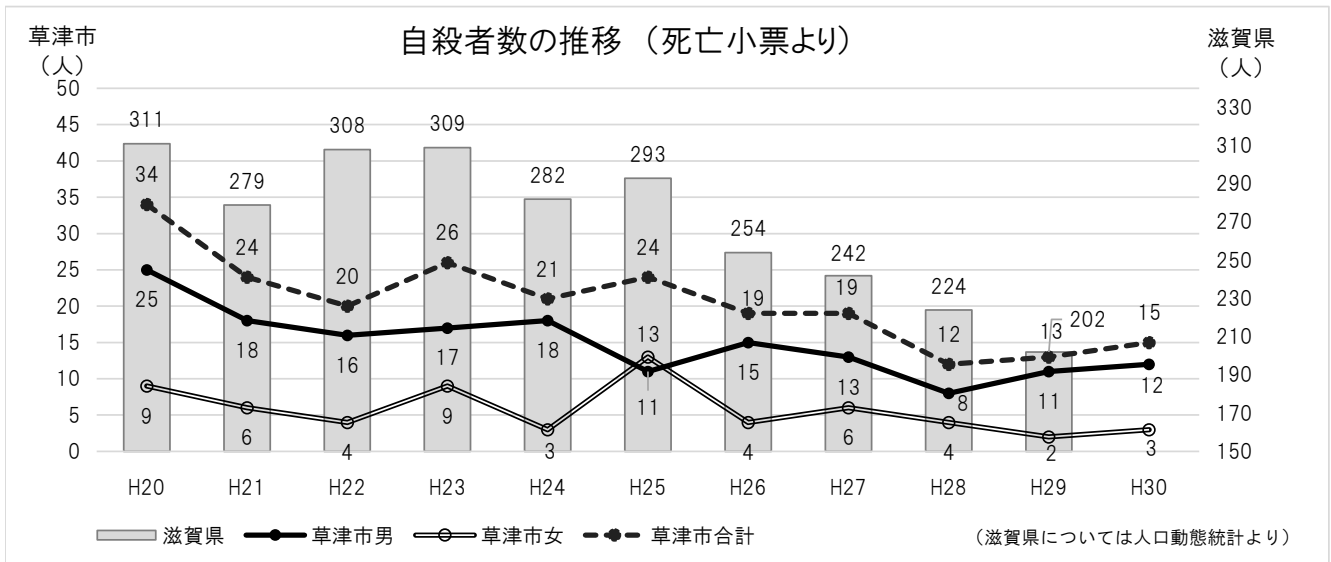
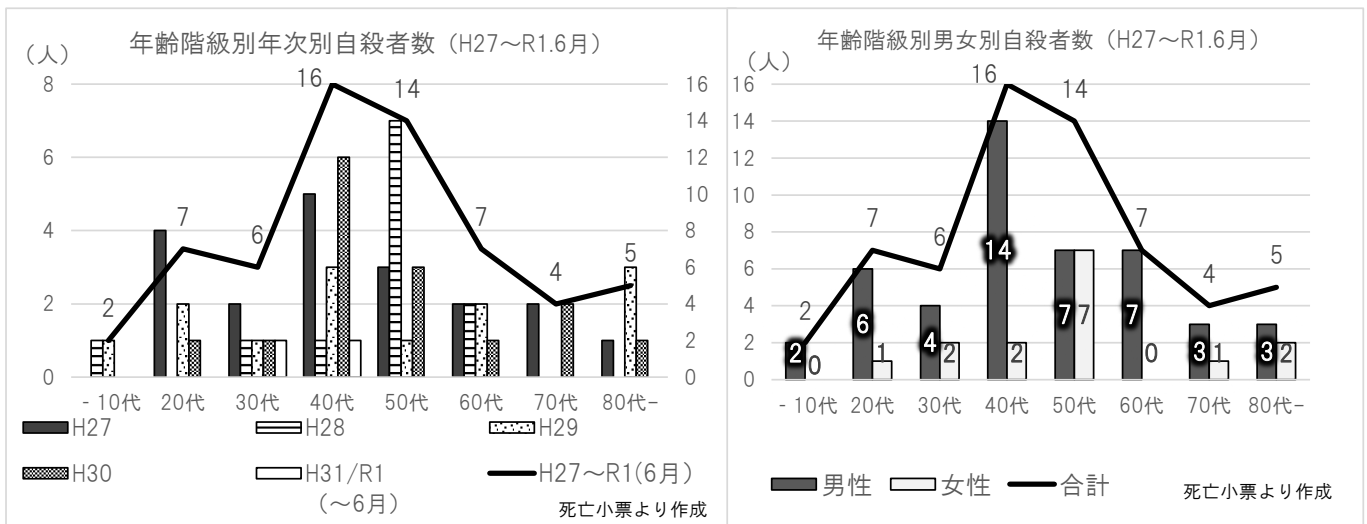


### 3. 自殺の状況と自殺未遂者支援の実態から

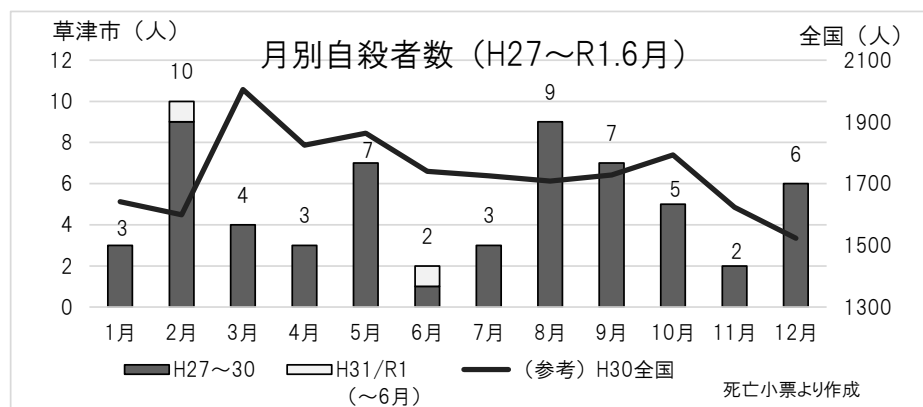
#### (1) 草津市の自殺の状況



- ・草津市の自殺者数は平成21年から5年間の平均は23人、その後平成26年から5年間の平均は13人と減少傾向ですが、最も少数となった平成28年以降、漸増しています。近年は、女性の割合が全国(31.4%)と比べ低い状況です。
- ・平成31年1月から令和元年6月までの時点で、2名の自殺があったことを把握しており、今後も引き続き状況を確認します。



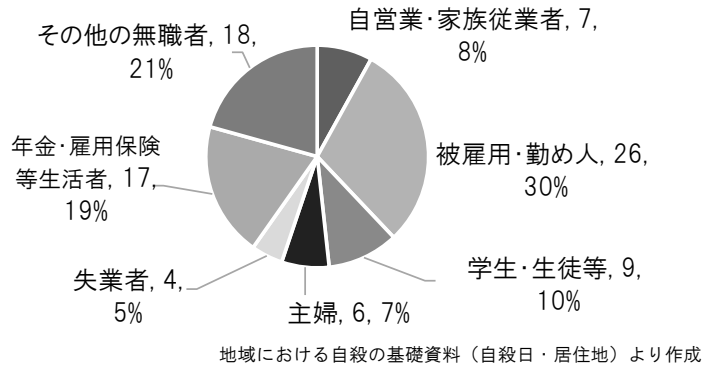
- ・年齢階級別男女別で見ると、40代男性が最も多く、次いで50代男女と60代男性、20代男性が多い状況です。
- ・H29プロフィールによると男性については、働き盛りとされる年代がリスクとして高く、女性については高齢の方のリスクが高いとされています。



月別にみると、全国的には3~5月、10月に山があり、冬季は減少傾向です。草津市においては、2月、5月、8~9月に多いですが、全体の人数が少ないことから、統計的に季節的な傾向は見出せません。

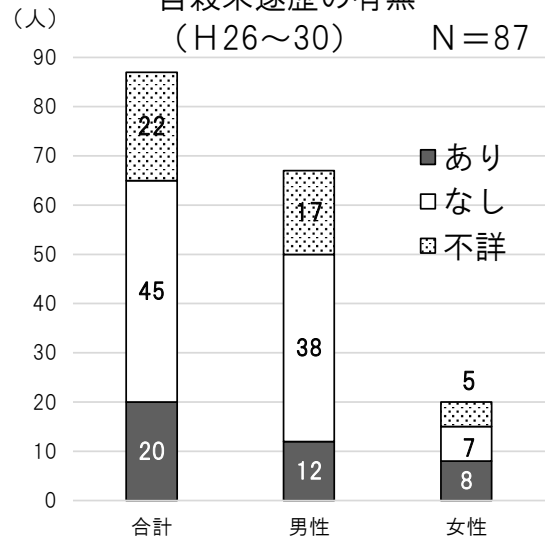
(参考)H30全国については、警察庁「自殺統計」より

### 職業別自殺者数(H26~30) N=87



・職業別にみると就労者が30%と、全国と変わりありません。  
 ・学生・生徒の割合が全国(3.9%)と比べ高い状況です。

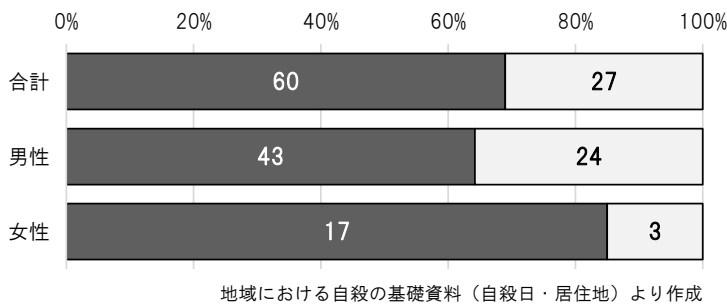
### 自殺未遂歴の有無 (H26~30) N=87



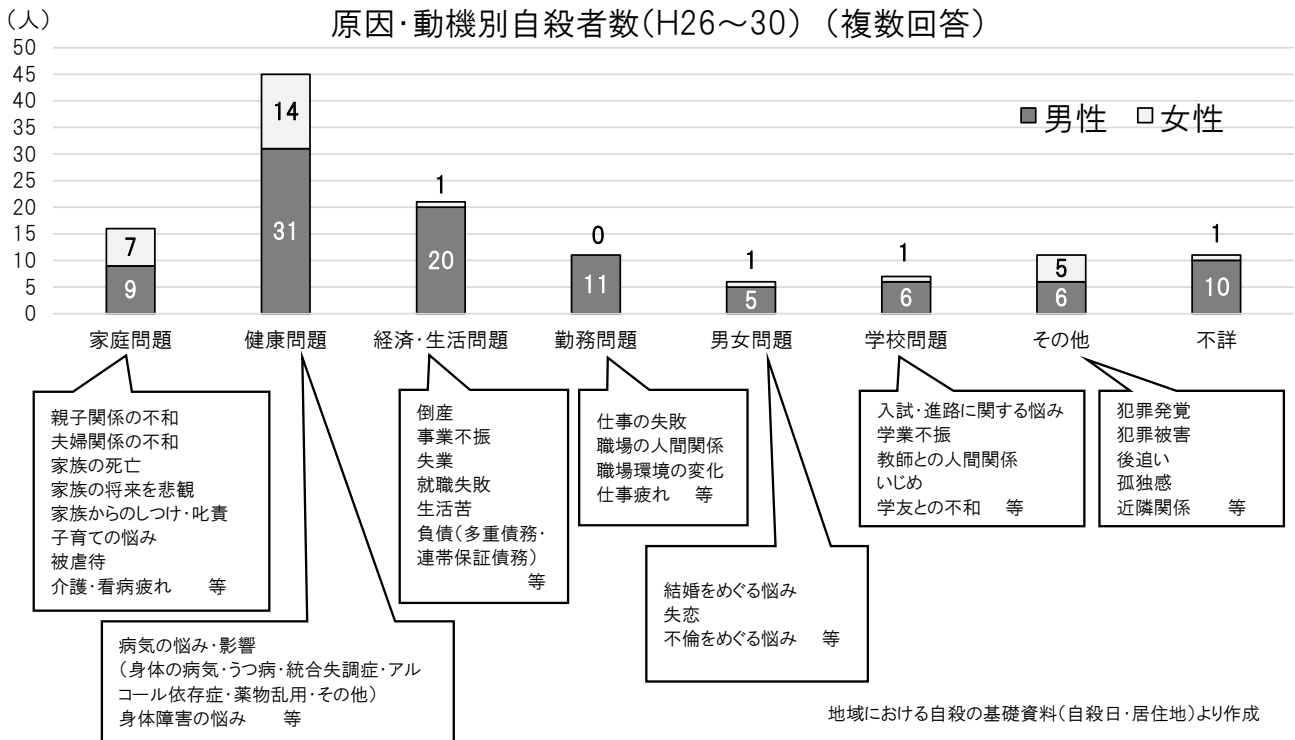
・未遂歴のわかる人のうち、概ね男性の4人に1人、女性の2人に1人未遂歴があり、未遂者支援が重要です。

・全体の7割近くは同居人があり、女性においては、85%に同居人がありました。

### 男女別同居人の有無(H26~30) N=87



### 原因・動機別自殺者数(H26~30) (複数回答)



親子関係の不和  
 夫婦関係の不和  
 家族の死亡  
 家族の将来を悲観  
 家族からのしつけ・叱責  
 子育ての悩み  
 被虐待  
 介護・看病疲れ 等

病気の悩み・影響  
 (身体の病気・うつ病・統合失調症・アルコール依存症・薬物乱用・その他)  
 身体障害の悩み 等

倒産  
 事業不振  
 失業  
 就職失敗  
 生活苦  
 負債(多重債務・連帯保証債務) 等

仕事の失敗  
 職場の人間関係  
 職場環境の変化  
 仕事疲れ 等

結婚をめぐる悩み  
 失恋  
 不倫をめぐる悩み 等

入試・進路に関する悩み  
 学業不振  
 教師との人間関係  
 いじめ  
 学友との不和 等

犯罪発覚  
 犯罪被害  
 後追い  
 孤独感  
 近隣関係 等

## (2) 自殺未遂の状況(自殺対策担当把握)

### ①草津市における自殺未遂者支援

#### ●「湖南いのちサポート相談事業」(保健所事業・全県実施)

自殺未遂で救急告示病院を受診した本人および家族に対して、病院から、行政(保健所・市)への相談支援の同意をとり、保健所を通じて市(自殺対策担当)に連絡がある。

公的支援の状況を確認し、支援担当者となる部署に連絡するとともに、自殺対策担当を中心に情報収集を行い、「自殺リスクアセスメント会議」を開催するなど、支援をサポートする。

#### ● 関係機関からの連絡

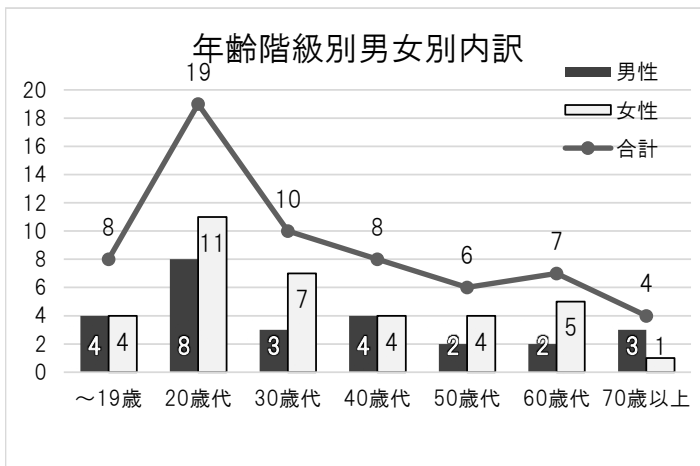
庁内外関係機関において把握した自殺未遂者や自殺念慮のある人について、支援が困難な場合に、必要な情報収集や「自殺リスクアセスメント会議」を開催するなどし、支援をサポートする。

※自殺リスクアセスメント会議…草津保健所の助言を得ながら、支援担当者により情報整理を行い、自殺のリスク判定を行うとともに、支援の方向性と役割分担を行う。原則として、最終の自殺行為から2年間評価する。

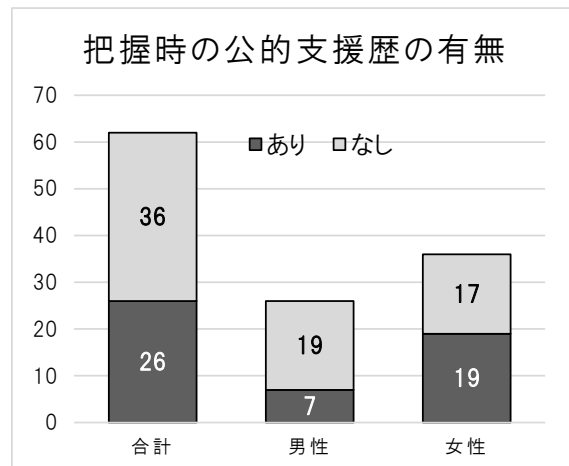
### ②自殺未遂者支援から把握した未遂者の状況(H27. 4～R1. 7)

(人)

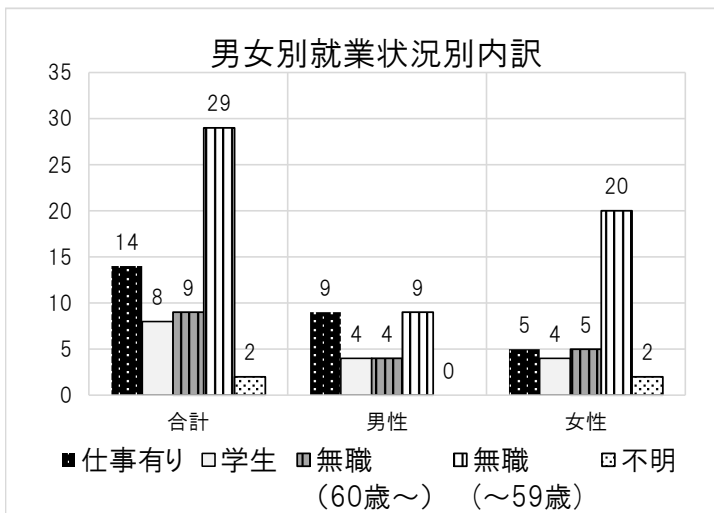
	H27	H28	H29	H30	H31 (~7月)	合計	(再掲) 湖南いのちサポート 相談事業ケース
男性	2	9	5	6	4	26	14
女性	9	9	10	8	0	36	27
合計	11	18	15	14	4	62	41



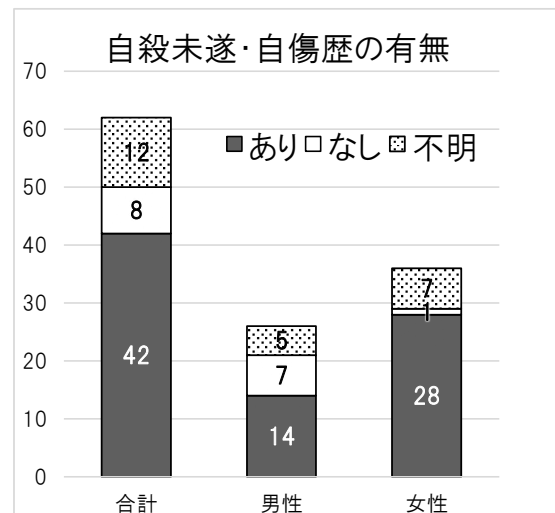
20歳代が男女とも最大で、39歳以下が全体の約6割を占めています。



半数以上はこれまでに公的支援につながっておらず、特に男性は3/4近くに支援歴がありませんでした。

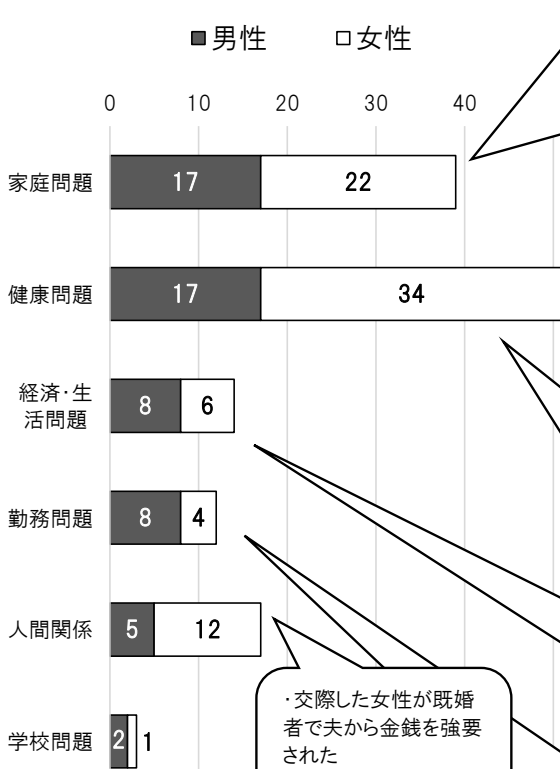


59歳以下の無職者が多くですが、女性でその傾向が強く、男性では仕事のある人も同数でした。



全体の7割近くがこれまでも自殺未遂や自傷行為があったことがわかっています。特に女性では把握できた人のほぼ全員に未遂または自傷歴がありました。

## 男女別原因・背景別内訳（複数回答）



(子ども)・父母が祖父母の介護のため本人に対し無関心  
 ・両親の不和のため本人へのネグレクトあり  
 ・両親の離婚により母と別居  
 (成人)・幼少期両親からの虐待あり、対人への恐怖や自尊心の低さが強い  
 ・ギャンブル等で借金あり、金銭管理を両親がすることに不満  
 ・幼少期から父のアルコール問題、暴力あり、夫のDVあり  
 ・夫のDVあり離婚、子と離別  
 ・前妻のことで夫とけんか ・妻から離婚を切り出された  
 ・出産後子育てにおいて孤立  
 (高齢者)・子育てのことなどで子夫婦と対立し不和  
 ・子と先祖供養のことなどで対立

・脳梗塞後、後遺症が改善しないことからうつ状態  
 ・うつ治療中、椎間板ヘルニア、坐骨神経痛を発症  
 ・小児期から喘息、アトピー性皮膚炎あり  
 ・発達障害から適応障害、うつ病を発症  
 ・統合失調症により幻覚・妄想あり  
 ・肺がんからうつを発症。うつの悪化により末期がんとのお悩み  
 ・アルコール依存症からアルコール性肝障害を発症

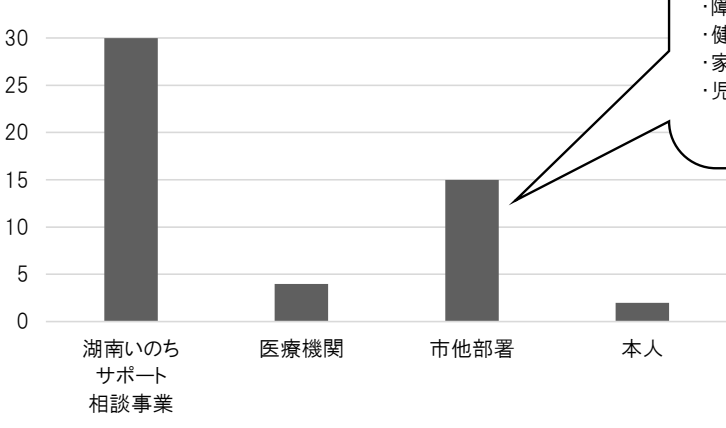
・株投資に失敗し借金  
 ・生活保護受給中  
 ・ギャンブルや買い物への依存のため借金  
 ・女性関係で詐欺被害にあい金銭を強要された  
 ・仕事が定着せず、収入がほとんどない  
 ・幼少期から困窮  
 ・子の学費の納入期限が迫る

・交際した女性が既婚者で夫から金銭を強要された  
 ・近所に住む友人とのトラブル

・友人関係がうまくいかない  
 ・心配してくる教師がうっとうしい  
 ・不登校  
 ・特定の異性教諭に依存  
 ・発達特性によりこだわり強く集団生活になじめない

・会社の上司から「お前が一番できない」等の叱責  
 ・解雇に近い形での退職  
 ・就職活動の失敗  
 ・就職の面接試験がせまる  
 ・就労が定着しない  
 ・長時間労働

## ケース把握経路（H28～R1.7） N=51



・生活支援課  
 ・地域包括支援センター  
 ・障害者福祉センター  
 ・障害福祉課  
 ・健康増進課  
 ・家庭児童相談室  
 ・児童生徒支援課 (学校教育課)

### 支援の連携先

男女共同参画課、商工観光労政課、生活支援課、障害福祉課、相談支援事業所、地域包括支援センター、子育て相談センター、家庭児童相談室、病院・診療所、作業所、訪問看護ステーション、民生委員児童委員、保健所、精神保健福祉センター 等